

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

相良匡俊氏寄贈「シャンソン関連資料」について
(特集 相良匡俊氏寄贈シャンソン関連資料)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鳥海, 高広, Toriumi, Takahiro メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1272

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



相良匡俊氏寄贈「シャンソン関連資料」について

日本データベース株式会社

鳥海 高広

寄贈の経緯

2013年に逝去された法政大学名誉教授、相良匡俊（さがらまさとし 1941-2013）氏の奥様、相良和子様から、19世紀から20世紀前半のシャンソンを中心とした資料が、2015年図書館に寄贈されました。

相良氏は西洋史、特にフランス近・現代史を専門として研究されていました。その研究の過程で、シャンソンとそのシャンソンが印刷された印刷物に興味を持たれたようです。大学での仕事は多忙だったため、法政大学を辞した後にシャンソンについての研究を本格的にまとめようと、日頃から資料を集めていらしたようです。法政大学の関係者も歴史学の同僚も相良氏のシャンソン資料収集について知っていた人はほとんどいなかったそうです¹。

音楽がご専門ではなかった相良氏ですが、歴史学者として集められたシャンソンの資料は厳選されています。印刷されたシャンソンの楽譜をメディアとして捉え、そのメディアの歴史の変遷とどのように流布したのかという視点の下に集められた資料は、コレクションとして一貫性があるものになっています。

相良氏は生前、ご自分の歴史学に関する蔵書などについては友人に差し上げたり、古書店へ売ったりしていいと仰っていたそうです。ですが、亡くなる一週間前、奥様に「一番大事なシャンソン関係だけは、これだけ集めた人はいないから、散逸させずまとまった形で寄贈してほしい」²とおっしゃったそうです。

その相良氏の遺言ともいえる意思を実行するため、奥様が法政大学の先生や、お知り合いの西洋史関係の先生、日仏会館の司書の方などに相談されたそうです。その過程で、東京音楽大学付属図書館にも寄贈の話がありました。学習院大学教授の福井憲彦氏や東京音楽大学教授の豊永聡美氏の協力を得て、東京音楽大学付属図書館に資料が一括で寄贈されることになりました。

¹ 相良氏の奥様、相良和子様による。

² 『相良匡俊氏寄贈シャンソン関連資料 = Fonds Masatoshi Sagara, la chanson française』（東京音楽大学付属図書館，2016年）。請求番号：M3.94/Sa18。

資料について

寄贈された資料は、19世紀から20世紀前半のシャンソンに関する楽譜や書籍が中心です。その他に、印刷に関する資料や、シャンソンのCD等の録音資料があります。

内訳

楽譜 289点

和書 51点

洋書 975点

録音資料 116点

合計 1431点

(2016年9月末現在)

※これらの資料は、東京音楽大学付属図書館の利用規程に則り運用されています

一部の資料は、劣化が激しいものがあり、そのような資料はデジタル化をしました。このような資料はデジタルによる代替資料を提供します。

録音資料は、館内試聴のみとし、貸出はしません。

資料の中で相良氏自ら生前に書き残したシャンソンに関するものは次の3点です。

- ① 2004年7月29日に仙台市博物館ホールで行われた「絵入り本ワークショップ I」での講演資料³
- ② 2006年11月30日に文教区民大学で行われた「近代フランスの庶民文化」という講演資料⁴
- ③『補遺』と題された未発表の原稿の最後に書かれた「今後の作業」という文章⁵

³ 相良匡俊「スターの誕生と絵入り印刷物」,『[相良匡俊氏草稿・関連資料]』所収(未出版,2016年),請求番号:XDM0.49/Sa18/1。及び、相良匡俊「スターの誕生と絵入り印刷物」,『[相良匡俊氏草稿・関連資料]』所収(未出版,2016年),請求番号:XDM0.49/Sa18/2。2つの資料は同じものの版違いと考えられる。

⁴ 相良匡俊「文京区民大学『近代フランスの庶民文化』:第5講:大衆娯楽の成立」,『[相良匡俊氏草稿・関連資料]』所収(未出版,2016年),請求番号:XDM0.49/Sa18/4。

⁵ 相良匡俊「補遺」,『[相良匡俊氏草稿・関連資料]』所収(未出版,2016年),請求番号:XDM0.49/Sa18/5。

①は絵入本学会が2004年に第1回のワークショップを開催した時に、相良氏が集めたシャンソンの資料を用いて、講演資料にまとめたものです。絵入り本ということで、シャンソンの楽譜の挿絵についての解説が中心に、印刷方法についても言及されています。相良氏によって書かれたシャンソンの資料のうち、最もまとまっている資料です。

②も、シャンソンの印刷についての解説が書かれています。こちらは当時配布された資料作成に使われたと思われるシャンソン資料の複写物も残っています。一般向けに行われた講座の資料のため、あまり専門的なことは書かれていません。

③には、最初の部分にシャンソンとは関係がない歴史学に関することが書かれ、最後の部分に「今後の作業」という見出しの下、シャンソン資料を集めるに至った経緯についての記述と相良氏が今後シャンソンについてどのような研究がしたいかということが書かれています。この部分は、今後このコレクションを利用するに当たり、参考になる部分ではないかと思えます。

相良氏が書いた文章には、音楽の内容についての言及は少なく、その音楽が社会に向けて発信するメディアとしての楽譜とその印刷についての記述が充実しています。

こういった資料とともに、相良氏の死後刊行された『社会運動の人びと 転換期パリに生きる』の出版記念会で配られたパンフレット⁶も相良氏の考えを知る上で大変参考になります。

シャンソン以外の資料としては、フランス音楽に関するものはもちろん、印刷に関するものがあります。楽譜をメディアとして捉えた場合、楽譜がどのように印刷されたものなのか、といった視点は、これまでの音楽史研究においてはあまり注目されていなかったかもしれません。相良氏が「今後の作業」で「印刷手法の技術的变化、制作・頒布の法的条件の変更などは意外にも頻繁であり、印刷物を見て制作時期をほぼ特定することが出来る」⁷と指摘しているように、今後は年代特定が出来ていない印刷された楽譜の年代を特定することも出来るようになるのではないかと思います。

現代のように、CDやネット配信で気軽に音楽を聴くことが出来なかった時代、はじめ歌詞のみが印刷され、やがては楽譜が印刷されてシャンソン普及に役立ちました。その過程で、印刷物に注目し、その歴史をたどることでシャンソンがどのように人々に伝達されたのかに着目して、資料を集められたようです。その視点に立って集められたということが、このコレクションの特徴になっていると思えます。

⁶ 「故相良匡俊先生著『社会運動の人びと - 転換期パリに生きる』(山川出版社刊)出版記念会」, 『[相良匡俊氏草稿・関連資料]』所収(未出版, 2016年), 請求番号: XDM0.49/Sa18/6。

⁷ 注5参照。

今後の展開

19世紀から20世紀にかけてのシャンソンの資料が日本でまとまって一般に公開されている機関はほとんどありません⁸。日本におけるシャンソンの需要は、決して少ないわけではなく、関連団体がいくつかあるにも拘わらず⁹、まとまった資料として公開されている場所は残念ながら限られています。この時期のシャンソンが、サティなどの一部の作曲家の作品を除いて日本の音楽大学で収集されていないのが現状です。理由として考えられるのは、この時期のシャンソンが概ね大衆音楽として捉えられているという点が考えられます。

今回寄贈されたコレクションは、シャンソンそのものの魅力はもちろんのこと、相良氏が「今後の作業」で語っているように、そのシャンソンがどのように人々に伝達され、普及していったか?といった点に力点が置かれているように思われます。

こういった視点は、音楽を専門に扱っている人はあまり持たない視点だと思います。そういった意味でも、このコレクションの意味は特別であり、多岐に亘る研究要素を内包していると考えられます。

もちろん、音楽的な視点から見ても、19世紀から20世紀にかけてのシャンソン資料でこれだけまとまった数が一箇所にあることは、先にも述べたように日本では珍しいことです。研究者にとっても、演奏者にとっても、こうしてコレクションとしてまとまった形でシャンソンの資料が図書館にあるというのは、大変有意義なことだと思います。

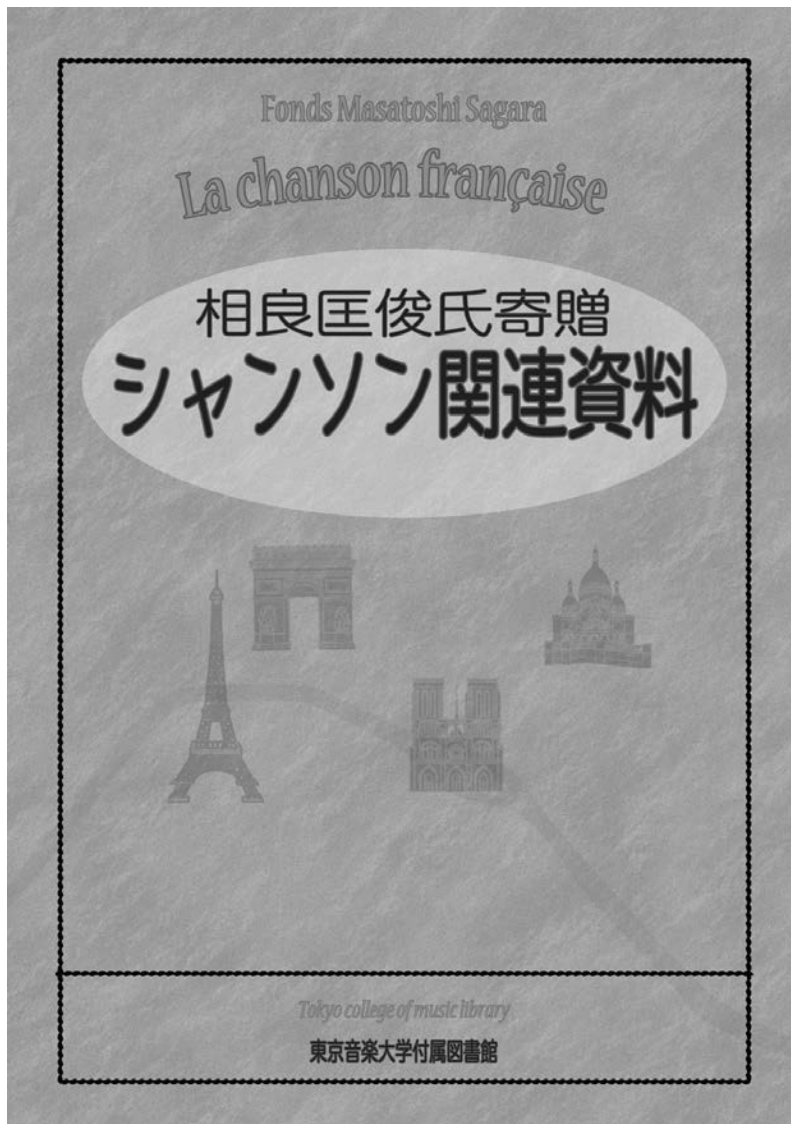
⁸ 比較的まとまったシャンソン資料としては国立国会図書館の蘆原英了コレクションがある。https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-101078.php (2017年1月31日参照)

⁹ 日仏シャンソン協会や日本シャンソン協会がある。

終わりに

東京音楽大学付属図書館では、当コレクションを紹介するパンフレットを編集・刊行しました。編集に際しては、前述「資料について」で挙げました相良氏ご自身の論稿からよみとれる、収集の意図、考え方等を参考にしました。また、東京音楽大学付属図書館のコレクションサイトでも紹介しています。

今後、これらの資料を用いてより研究が深まり展開していくことを、切に願っています。



参考文献

相良匡俊

2004年 『スターの誕生と絵入り印刷物』(未出版)

2006年 『文京区民大学「近代フランスの庶民文化」：第5講：大衆娯楽の成立』(未出版)

2013年 『補遺』(未出版)

『故相良匡俊先生著「社会運動のひとびと：転換期パリに生きる」出版記念会』

2014年 (未出版)